

時系列分析の理論とモデリング

「時系列分析」の要約

松田正典(埼玉医科大学総合医療センター)

「時系列分析」の基礎

三橋利晴(岡山大学病院)

ARIMA(自己回帰和分移動平均モデル)のモデリング

織田哲朗

「時系列分析」の報告事例

清水沙友里(横浜市立大学)

日時:2022年2月26日(土) 14:00~17:05

場所:オンライン開催

※オンデマンド配信の予定なし

会費:一般1000円/学生500円

参加登録URL: <https://peatix.com/event/3146413/view>

先着順事前登録制 (〆切:2月22日)

臨床疫学研究における報告の質向上のための統計学の研究会

第 39 回研究集会

目 的	本研究会は、研究報告の質 (reporting quality) 向上のための統計学の勉強会です。 臨床疫学系の多くの研究者は、統計学の専門家ではありません。我々は、論文を書くための「道具」として、統計学を使っています。我々が論文を書く際は、より良い研究になるように、「適切」に方法や結果を記述したいと願っています。国際的には、統計手法別に、どのような情報を論文で記述すべきかを規定しているガイドライン (reporting guideline) が数多く公表されています。しかし、我々は、残念ながら、こういったガイドラインの学習にまで、なかなか手を伸ばせないために、「ある統計手法を使ったものの、どのように論文に報告すれば良いかわからない」といった問題によく遭遇していると思います。 こうした問題を解決すべく、本研究会では、「データ解析環境 R を共通言語として、より良い研究をするために、研究報告の質を向上させるよう一緒に勉強する場を提供すること」を主眼としています。このような場を利用して、臨床疫学系研究者が統計学の勉強を継続する「熱意」を保ち、より良い研究を国際的に発信していくことを願っています。
会 場	オンライン開催 (オンデマンド配信は予定していません)
開催日時	2022 年 2 月 26 日 (土) 研究会 (一般 1000 円/学生 500 円 事前登録制) : 14:00~17:05
定 員	100 名 (開催最低人数 : 6 名) 注) 1 研究室あるいは 1 企業からの参加人数を制限させて頂くことがございます。
参加資格	1. 臨床疫学系の研究者 (大学院生以上) 2. 発表者になることを厭わないこと 3. データ解析環境 R を使用したデータハンドリングの基礎がわかること (目安として「舟尾暢男・高浪洋平 (2005) データ解析環境 R. 工学社」の第 2 章から第 5 章の内容を理解していること)
参加方法	1. 今回の研究会に参加希望の方は、 (https://peatix.com/event/3146413/view) にて参加登録下さい。 2. ML 加入者が優先参加できます (https://groups.google.com/d/forum/require_epi)。
注 意	発表資料は前日にデータで送付します。
世話人	清水沙友里 (横浜市立大学)
協力者	松岡志帆 (東京医科歯科大学大学院)、市倉加奈子 (北里大学)
後 援	一般社団法人臨床疫学研究推進機構

時系列分析の理論とモデリング

14:00	開会の挨拶 (5 分)
14:05	次回の研究会の案内 (5 分)
14:10	時系列分析の要約 (発表 15 分) 松田正典 (埼玉医科大学総合医療センター)
14:25	時系列分析の基礎 (発表 45 分; 質疑 10 分) 三橋利晴(岡山大学病院)
15:20	ARIMA(自己回帰和分移動平均モデル)のモデリング (発表 35 分; 質疑 10 分) 織田哲朗
16:05	休憩 (10 分)
16:15	時系列分析の報告事例 (発表 35 分; 質疑 10 分) 清水沙友里 (横浜市立大学)
17:00	次回の研究会の調整 (5 分)
17:05	閉会

注) 研究会の主旨に従い、発表者に講師料等は一切お支払しておりません。